

第4章

交流広場間のネットワークの推進

第4章 交流広場間のネットワークの推進

交流広場間のネットワークの推進として、地域コミュニティ・アワード 2009 の内容、全県連絡協議会や地域ネットワーク会議の実施状況など、県民交流広場事業の実施にあたっての県のフォローアップについて紹介します。

1 地域コミュニティ・アワード 2009

1-1 全県連絡協議会設立総会

※アワード 2009 の概要は、第 1 章の P3 を参照ください。



◆ 時 間 : 11 時 5 分 ~ ◆ 場 所 : 中庭

〔全県連絡協議会 西尾代表 あいさつ〕



ただいまご紹介いただきました、県民交流広場の全県連絡協議会の代表世話人の西尾でございます。

私たちの広場は、平成 18 年度から、小野地区で広場の助成を得てコミュニティセンターの一部をレストランに改修し、食を通じた住民交流や地産地消に取り組んでいます。小野市の補助や地域にお住まいの女性方がのんびりもあって、スタッフ一同楽しみながら、何とか進めています。でも、悩みもあります。そのため、日頃から、同

じような取組をしている広場同士が地域を越えて交流する機会が、ぜひ欲しいと思っていました。そういう意味で、県から県民局単位や全県で、広場のネットワークをつくらぬかと声をかけてもらったことをうれしく思っております。

私たち県民交流広場では、今年、それぞれの県民局でネットワーク会議を立ち上げ、その代表者が集い、全県連絡協議会をつくりました。そして、本日、第 1 回の「地域コミュニティ・アワード 2009」がこのような盛大に開催できました。これも県内各地で活動されている広場の皆さん、県民局、市町の皆さん、特に北播磨県民局、嬉野台生涯教育センターのご尽力の賜であると思っております。

この場をお借りしまして、厚くお礼申し上げます。

このように県内各地の広場の皆さんにお集まりいただき、各広場の皆さんが相互に、活動の成果、活動のノウハウや様々な課題を持ち寄り、共有することができますことは、さらに広場が元気になり、広場の継続的な運営と活動につながっていくための、大きな励みになります。

本日ここに、全県連絡協議会の設立を宣言し、

この全県連絡協議会や地域ネットワーク会議を通じまして、広場の活動を高め、参画と協働によるコミュニティづくりにつなげていきたいと思ひます。

今後とも、ご協力のほど、よろしくお願ひし、県民交流広場 全県連絡協議会の設立宣言とごあいさつといたします。ありがとうございます。

〔兵庫県企画県民部 中塚政策参事 あいさつ〕

みなさん、おはようございます。本日は、第1回地域コミュニティ・アワードのために、朝早くから、そして、全県から、こんなにたくさんの方にお集まりいただきました。本当にありがとうございます。

先ほど、西尾代表から本当に力強い全県連絡協議会の設立の宣言がありました。現在、県民交流広場は523箇所、それぞれ様々な活動をされておられますし、また、その準備がすすんでいるとお聞きしております。

この活動が、これまでの立ち上げ期、基盤整備期から、持続可能で継続性をもった多彩な活動が全県で展開される成熟期に向かい、いよいよ力強い第1歩を踏み出したと期待しております。今日は、各県民単位で、2カ所ずつ、代表の県民交流広場の皆様にご出展いただいております。後ほど、それぞれ皆様方の投票にもとづいてコミュニティ賞をお贈りする予定です。これは、朝ほどの説明会で、野崎委員がおっしゃられましたように、勝ち負けや優劣を決める趣旨ではございません。それぞれの活動に対して、皆さんが、応援やエールを送っていただき、そのエールを集めて、みんな、仲間ほめをし、さらに次の活動につなげていきたいということでございます。

知事も青空フォーラムが開催されているあたりには、こちらに駆けつけてくれると思ひます。

今日は、北播磨地域の「北はりま絆プロジェクト 交流ひろば大会」、そして、ご当地の嬉野台生涯教育センターの皆様方によります「うれしの台で学ぶ世代交流フェスタ」と合同開催させていただきます。暫くこの形でつづけていき、ふれあいの祭典のように、第10回、第20回の地域コミュニティ・アワードにつなげていきたいと思っております。

今日は、どんどん交流して、明日への第1歩を踏み出していただきたいと思います。今日は、本当に皆様方ありがとうございます。



1-2 青空フォーラム



◆ 時間：13時～ ◆ 場所：中庭

コーディネーター：野崎 隆一 氏 県民生活審議会委員、ひょうご市民活動協議会代表
パネラー：三井津 勝之 氏 稲美町天満南地区
細見 守 氏 朝来市与布土地区
山本 三千 氏 西宮市瓦木・深津地区
岡田 孝久 氏 神戸市八多地区

[兵庫県知事挨拶]



皆さんこんにちは。県民交流広場のいわば県内大会が開催されるということになりましたので、私も様子を伺いに参上いたしました。県民交流広場はもともとCSRとっておりました、法人県民税の超過課税を活用してスポーツ、文化、レクリエーションの拠点を整備していこうということで始まったCSR事業が発端であります。

なぜ、CSR事業を始めたかという、なかなか

か勤労者、働いている人たちの共通のスポーツだとか、文化だとか、あるいはレクリエーションの場がないということから、その場を整備していこうというのが最初です。文化でいうと、例えば、尼崎にあります、ピッコロ劇団（ピッコロシアター）、但馬ですと木の殿堂、これなどもCSR施設ですし、最近では里山公園を整備させていただきました。その次にスポーツクラブ21という事業をやらせていただきまして、これも各小学校区にスポーツクラブ21を充実して、子どもからお年寄りまでみんな、気楽にスポーツに親しめる、そういう環境整備をしていこうということで実施したのですが、これも5年間行いまして、それなりに定着しました。

次に何をやるかと言った時に、ハードの整備は概ね整備されてきたので、ソフト事業なんだけでも、地域の中でみんなが交流し合いながら、気持ちをリフレッシュする、そういう環境整備が必要なんじゃないか。特に最近、地域の中で活動を展開する結びつきが薄くなってきた、こう言われてきましたので、もう一度地域づくりを再構築

する、地域づくりをもう一回、盛んにしていこう、お祭りだけではない、日常的な地域づくりというのを地域の中で盛んにしていこうと。そうすると、どこか集まる場所があるな。どこか集まる場所というのを整備して、そこを拠点に活動を展開していただけたらいいだろう。しかし、その活動というのもいろんな活動がありますので、そこは地域の方々がしやすい拠点整備をしていただけたらいいのだろう。だから広場を作るというのもそうですし、教室を作るというのもそうですし、調理施設みたいなものをベースに活動を展開するのもいいし、なんでもいいと。しかし、地域のみなさんが自主的に使い勝手のいいような施設を整備していただいた上で、活動を展開していただくということにしたのが県民交流広場です。

したがって、きっと今日集まってこられて、どんな活動を展開しているかという、その活動ぶりをお披露目していただいています、ずいぶん地域によって違うなとみなさん思われたのではないのでしょうか。それが、きっと一番にこの県民交流広場にふさわしい事業展開だと思います。みんな同じようなことをやるというのは、実をいうと県民交流広場が狙っている展開ではありません。それぞれの地域の方が、地域の個性を生かして、やりたい放題とはいいいませんが、やりたいことをやっていただく、そのための拠点を作っていただけたらというのが、今回の県民交流広場であります。今年度末でほしい全小学校区830ほどありますが、500ぐらい、65%ぐらいのところまでこぎつけました。まだ、40%くらい残っていますが、これはまだ来年とか再来年とか、まだ応援してまいりますので順次それぞれの地域で工夫をしていただければなと思っています。

しかし、このような多くの地域での活動ぶりが一堂に会して発表する機会があれば、このこと自身が、いわゆる情報の発信と情報の受信につながって、これがヒントになって次なる地域活動のきっかけになる、あるいは新しく取り組んでいく事業のきっかけになるということにもなりますので、大いに私自身も楽しみにさせていただいていますし、期待しております。そういう意味で、これからきっと苦労話をいくつか伺えるのではないかと思います、その苦労を何ためにしているのかということ、楽しいことを目指すということだと思います。勝手に最後に結論を先取りしてしまいましたけれども、ですが、そのような地域での苦労は、最後には楽しみが待っているということではないかと思います。それをみんなで分かち合える、そういう意味での活動を、ぜひ今後とも県民交流広場を中心に展開していただけたら幸いです。皆さん頑張りましょう。

〔野崎氏〕



知事さん、ありがとうございます。ここから進行は私の方でやらさせていただきます。今日皆さんがいろいろ準備をして展示をスタートさせてから、それぞれの活動団体にどんなことが「今一番課題となっているか」、「一応こんなことを解決してやったよ」というようなご意見を聞いてきました。

ここで集めたテーマの中からこれ、というのを選んでやろうと思います。事務局と一緒に皆さんからいただいた意見をまとめました。「人を集める」、「世代を超える」、「まずは動く」、「活動経費」という一応4つに分けていますけれども、この背景には10とか20ぐらいのいろんな意見がありまして、それを仕分けしてこういう風にさせていただきました。

「人を集める」「世代を超える」。これはある意味近いテーマですね。人を集めるためにはいろんな世代の人に参加していただかなければならん、ということですね。これを1つのテーマとしてやりましょう。

「まずは動く」。幸いスタート時点には補助がありますので、補助がある間に思いっきりいろんなことをやってみよう、それを将来の運営の安定につなげていこうというのがあると思います。この2つを1つの関連するテーマと考えて、大きくは2つのテーマについて、前に4人の方に出させていただいておりますので、いろいろな話を聞きながらやりたいと思います。全体で4～50分近くの限られた時間ですので、時間が取れましたら、会場の皆さんのご意見を聞きたいと思います。

それではまず4人の皆様をご紹介したいと思います。まずは右側から天満南地区の三井津さん、朝来市与布土地区の細見さん、西宮の瓦木・深津地区の山本さん、神戸市八田地区の岡田さんです。この4人の方からまず口火を切っていただいて、議論を進めていきたいと思っています。

まず最初のテーマは「人を集める」。県民交流

広場開設したけれどもなかなか人が集まらない、とか、お仕事しておられる方、子育て世代の方がなかなか活動に参加できない。その辺について1人ずつ「今こんなこと苦労している」とか「こういうこと試しにやっている」というのを3分程度お話し頂けたら。では三井津さんから。よろしくお願ひいたします。

〔天満南：三井津氏〕



稲美町の天満南地区から来ました三井津と言います。よろしくお願ひいたします。まずは当地区の特徴をちょっとご紹介させていただきます。天満南地区というのは稲美町の南の端にあります。JRあるいは高速に近い地域なんですけれども、稲美町は元々農村が中心の地域で農村の古い集落の中に新しい団地が点在しております。稲美町の中でも一番新しい団地の多い地域です。その中に残念ながら公共のコミュニティ施設がないという状況でございます。したがって既存の集落の方と新しい団地にお住まいの方々の交流がないというのが最大の悩みでした。

小学校はどこも今、同じかと思いますが、児童数が激減しております。昭和60年には650名だった児童が今は217名。そんな調子で3分の1以下になっておりますので、余裕教室がいくつかできております。その余裕教室を住民の皆さんに開放するというのがこの事業のスタートでございます。4つの教室を開放いたしまして、皆さんで利用できるような部屋を作って、現在使っております。人を集めるという意味では、サークル活動等に提供するだけでは特定の人がお使いになるだけで、これでは交流広場の目的とは反しますので、我々が教室を作っている。今、定例で6つ教室をやっている。これは毎月開催している。そのほかに、住民の皆さんあるいは委員の皆さんの意見を聴いて、今月は何をやるかなあ、ということで、実は明後日はちぎり絵で来年の干支を作ります。ヨガをやったり、体験教室を毎月開催しております。その他、親しみのある広場づくりと

いうことで、喫茶コーナーを設けておまして、喫茶は平素利用される方が活動が済んだらお茶を飲みに来る、あるいはお茶を飲みだけに来られる、おしゃべりしに来る人だけでもかなりの数にのぼっています。実はこれが最後のテーマになります、これからの事業資金の一番の元になると考えております。以上です。

〔野崎氏〕 ありがとうございます。今のような調子で最初に地域のご紹介をいただいても結構かと思えますけど。では細見さんどうぞ。

〔与布土：細見氏〕



朝来市の山東町与布土から来ました細見です。私の地区も集落が10集落くらいある世帯数500で人口数1400あまりの集落なんですけど、朝来市の中でも高齢化率が2番目に高い地区で、与布土小学校に通う児童も50数名という厳しい状態です。まず県民交流広場事業までに、分権型社会システムということで、地域で出来ることは地域でやろうという組織作りを先に、19年の6月に設立しました。その中でまずどういう形で取り組むかということで、各区から5名程度地域づくりに関心を持てる方を出して欲しいという呼びかけをしたときに、区長さんをお願いしたら、区長、副区長、会計という役職ばかりに声をかけられて、それで地域が全てになるんじゃないかという感じでした。ではなくて、女性の方を二人ほど入れて欲しい、若い人も入れて欲しい、なおかつ役職の方もおられたらと。そうすると各区から7名、8名の方が来られて、総勢80名くらいでワークショップを開きました。これで地域の課題、地域の宝物は何があるかということをやったときに、こんなものが宝物や、ということが出てき、課題は何があるかと言えば、やはり農業地区で、農地の荒廃、放棄田、少子高齢化、少子化による様々な問題点、例えば1世帯の家族だけしか子どもが居ない集落もあって子ども会活動が出来ない。その中で地域で何とかしようということで小

学校区単位での協議会を立ち上げて、それで活動しようとしたときに、ちょうどそういうときに県民交流広場事業というのに気が付いて、なんとかこれで地域を一緒に盛り上げていきたいなということで取り組みました。

区の町会はいがい年のいった方が行かれるわけで、若い方や女性の意見は誰も吸い上げないのだけれども、ワークショップという座談会の中では「私はこない思っている」「あんたもそうやったん、私もそうやった」という、1人1人の思いが「私だけじゃなかった」「みんなこう思っている」と共有される中で自治会組織が立ち上がっていったので、若い方の地域を何とかしようという熱い思いがそのまま走っていったことで、大変いい結果に結びついたのではないかと。20代、30代、40代の方も地域づくりに熱心に取り組んでいただいているのが実情です。

〔野崎氏〕 ありがとうございます。じゃあ、瓦木・深津の山本さんお願いします。

〔瓦木・深津：山本氏〕



うちは阪神南県民局管内で西宮の阪急西宮北口駅からJR甲子園口駅のあたりの2つの小学校区内で広場をさせていただいております。都市部は都市部の悩みがありまして、西宮は珍しく子どもたちがすごく増えている地域なんです。ただ震災後、家がつぶれてしまったりして、コミュニティがすごく大きく変わり、人間関係も変わりました。そういう中でどうしても子どもを囲い込むといいですか、1軒1軒が自分の子どもを家で抱え込むような状況ですので、社会性のある子どもたちを育てるためには、地域の方たちとふれあえる場が少ない。地域の中は非常に便利といいながら、高齢者の方とか子どもたちが自由に遊べるとか、集える場所がなかった。先ほどの方も言われたように、結局地域課題は何かというところをきちっと踏まえて、ものごとを進めたことが、結局自然に人が集まることにつながったのかな、と

思っております。

最初に時間がかかりますが地域組織を全部入れた組織作り。うちの売りは小学校の正門を入ったところの敷地をどうしてもここをお借りしたいということでお借りしています。2校区で皆さんが集まるのに魅力的な場所でないとは来ない。なので古いところは要らない。新築で2校区分、2600万いただいて、新しい建物で一部2階建て。今日は第3ブース、体育館でやっていますので、どんなところかパンフレット良かったらもらいにきてください。そういう場所ですので、子どもたちがとにかく集まる。県民交流広場の中でも利用者の平均年齢が多分うちが一番若いかなと思います。

小学生で毎日、学校帰りに寄る子、1回帰ってゲームを持って来る子、それが1クラスから2クラス分来ます。親御さんも覗いてくれたりということで、月1回の定例会とかを含めながら。今は高齢者の方とか大人の方になるべく利用して欲しいので、前回落語会なんかしましたら、それをきっかけに普段とは違う方も来られて。今ちょうど先々月くらいから、先生に来ていただいて、けん玉とお手玉の検定試験をしています。皆さんのなかで「こんなのどうやろう」というのを取り入れて、私が1人で走るのではなくて、「こんなことやってみよう」というお話やアイデアを入れて、失敗してもいいから新しいことをどんどんやっています。そういうところからちっちゃい子どもを連れてお母さん方が午前中、フローリングですので、赤ちゃんをはいはいさせながら、皆さんが面倒を見ながら遊んでいます。

社会福祉協議会やらスポーツの関係やら色々な自治会の方が、2階においてある印刷機を借りに来たときに顔をあわせると、「明後日こんなイベントがあるよ」といえば、「じゃあ声かけようか」とか「これ、おばあちゃんに来て欲しいけど、老人会で来てくれない？」って行ってチラシを渡すと、そこで声をかけていただけ。子どもたちが居るので、自然にPTAのお母さんやらお父さんやらがのぞいて下さる。

まだまだ十分でないですけど、私が思っていた魅力的な場所づくりがあれば人が集まるんじゃないか、というところは、予想以上に効果的だなあ、と思っております。今、インフルエンザも流行っていますが、地域で子どもたちを守る。学校と連携するということも進めています。そんな感じです。

〔野崎氏〕 ありがとうございます。じゃあ、神戸市の岡田さん。

〔八多：岡田氏〕



八多（はた）町。八田（はった）町とは間違わないようにしてください。文句をいっているわけではないんですけれども。私は全国に八多町を発信したいと思っておりまして。

昨日実は「全国茅葺き民家保存ネットワーク協議会」という舌をかみそうな長い名前の全国大会がありまして。というのはふれあいセンターというのが中心にあるんですけれども、八多町のふれあいセンターは茅葺き民家を移築して作っておりますので、そのご縁で、茅葺き民家の保存のネットワークが全国的にあるんですけれども、その全国大会を昨日、八多町でやっていただきました。

八多町は神戸市なんですけれども、北区の端の三田に近いところです。神戸は海とか山とかハイカラとかいうイメージがあるんですけれども、六甲山を越えると里山がある。そういうところがあるというのは、神戸市より大きな強みであるということで、神戸市北区も力を入れてくれています、全国的にも珍しく「茅葺き係」という方が役所の中に2人もいらっしゃる。非常に全国的にも素晴らしい取り組みだそうです。

八多町の方は、小さな町で3千人ほどしかおりません。細長い町で、面積的には長田区の3倍ということで広いんですけれども、新しい市街化区域というのがごく一部なんですけれども大体は農村地帯。ということで古いききたりが残っている、古い伝統が残っている。お年寄りが非常に元気であるような伝統芸能が盛んです。文化祭と合わせて町内の演芸大会をやるということで、今年で4回目ですけれども、舞台を作って欲しいなということでどこかお金がないだろうかと言っていました。神戸市さんに言ってもなかなかお金がないとおっしゃるから、県の方にこういうことでお願いして、ステージを作ってもらおうということで1千万円をいただきました。野外ステージを作りまして、今年は文化祭も盛り上がりまして。ブースの2番でその様子を写真に撮っておりますので、見ていただいたらと思います。

小学校とか中学校が1つしかありませんので、

行事をやるときには学校との連携も大事な、ということで学校と連携しながらいろいろとやっております。さっきの茅葺きの保全のことに戻りますと、今度の土曜日は自治会と中学生と一緒に茅刈りをやります。自然を守るという活動を若い世代に繋げていきたいということで茅刈り活動をというものをやっています。小学校とも餅つきとかしめ縄づくりをやっておりますけど、若い世代にどう繋いでいくかが大事だと思っています、

楽しくやらないといけない。私は「わいわいがやがや」という精神だと思うんです。楽しくやらないと長続きしませんので。「行って面白かったな」といってもらえるとロコミでひろがる。新聞とか雑誌に載って、やっているという知らせも大切だけれども、来た人が2度来てもらえるというか、楽しい、わいわいがやがやという精神も大事だな、と思います。

古い地域ですので、婦人会とかいろんな社協とか青少協とか各種団体のネットワークを作るのは大事だなと思ひまして、人を巻き込んでいろんな活動をしていく、というのが長く続けるというかそういうことにつながるのではないかと思っております。以上です。

〔野崎氏〕 ありがとうございます。そしたら次のテーマに行く前に、今お話ししていたことに質問や補足していただきたいことをお聞きしたいと思います。三井津さんのほうにですね。喫茶コーナーを作ってやっておられるとのことですが、これは常設ですか？

〔天満南：三井津氏〕 月曜日を休館日にしておりますけれども、水曜日から土曜日までの4日間やっております。毎日散歩するグループ、ボランティアグループにやっていただいておりますが、4つのグループに応援していただいております。

〔野崎氏〕 細見さんにお伺いしたいのですが、特に農山村のエリアに行くと区長さんとか集まるとほとんど男性ばかりになるんですよね、若い人はなかなかいないと。そこを最初に集められたとのことはすごいと思うのですが、どうやって声かけして集められたのでしょうか？その辺の工夫は？

〔与布土：細見氏〕 区長さん方をお願いしたら、役員ばかりで組織をつくらうというのがどうしても出てきてしまうので、区長さんをお願いしたのはまず、女性の方は二人は入れて欲しいとか、若い人は二人は入れて欲しい、各区から5名程度、プラスαで役職の方も来られてもよいですよ、と

というような声かけです。ワークショップですから、1グループは8名、8つ作ったら、60数名の方がちっさなワークショップなので、みんなの意見が出しやすい。会議形式でやるとおそらく女性や若い人は自分の思いを出してくれないけれど、8名くらいの少人数であれば「私の思い」というのが出てきて、1人の思いが共有の思いになってきて、それじゃあ私らでなんとかしたらどうやろうと、一歩進んだ「思い」から「行動」に繋げて行けたというのが一番の結果として良かったのな、と思います。

【野崎氏】 ありがとうございます。私もまちづくり、日高とか八鹿とかでやったことがあるんですが、女性が出てきてもらうのはなかなか大変ですね。最後にはみなさんご夫婦で出てきてください、みたいなことを言ったこともあります。それでは山本さんにお聞きします。今、毎日オープンなんですよ？

【瓦木・深津：山本氏】 一応盆、正月、3～5日位休み以外は。今年は、インフルエンザで学校閉鎖が5日ほどありまして、学校の敷地内にありますので、一応学校閉鎖の5日休みでしたが、平日土日も含め365日中、355日くらいは、三交代で10時から7時までやっております。それは皆さんのご苦勞で何とか。毎月事務局が手間がかかるのにアンケート取ってくれまして、都合のいい日・悪い日を集めてくれ、一覧表にしてお配りするということをしてくれて、やっと回っています。まだ十分ではないので、これからです。

【野崎氏】 その辺がみなさんの一番の悩みの種ですよ。役割と日程を作ってもなかなか埋まらないとか。

【瓦木・深津：山本氏】 それはこだわりで。毎日開いているからいつ行っても、というのがあるので。おばあちゃんでも誰でもちょっとのぞきたい人が、閉まっていたらがっかりすると思います。使う方のことを第1に考えることが後につながるのかな、と思います。

【野崎氏】 それでは岡田さんにお聞きしたいのですが、古い集落の中にいろんな住宅が出来て、新しい住民の方が来られる。両方が混ざってやっておられるということなんですが、新住民というか、後から来られた方々の巻き込みというのはどんな苦勞されているのか、補足的にお話しいただければ。

【八多：岡田氏】 新しい方を巻き込むというのは非常に難しいなと言いますか、決め手は無いと思うんですが、足運んでもらって行事をして、「楽しいな」と思ってもらえるのが一番かな、と思うんですけれどもね。それとやっぱり誘いというか、声かけしかないと思うんですけれども。一回とにかく来てもらおう、ということ。それが実際は言うほど簡単ではないんですけれども。新しい住民といいますが、八多町の場合はまだそんなに増えている訳ではありませんので、古い人の方が9割くらいいらっしゃると思いますので、その人たちを中心に新しい人を少しずつ巻き込んでいくという形になっていますね。

【野崎氏】 ありがとうございます。それでは2つ目のテーマですね。「まずは動く」。それから「運営の活動経費」ですが、県民交流広場事業として地域にいろんな事業を立ち上げられたと思うんですが、どんな事業を立ち上げられて、どうもこれは継続できそうとか、ちょっと別の展開を考えないかなとか、いろんなことを思っておられると思います。そういう事業をまずやってみようというあたりで、どういう発想でスタートしたのかという辺りを含めてお話したいと思っています。時間があまり残っておりませんので、お一人2分くらいで。

【天満南：三井津氏】 元々の発想は先ほど言いましたとおり、学校の余裕教室をどう活かしていくかというのが起点になっているわけです。まずは誰でも自由に参加できるような企画を皆さんに提供できるようにすることだろうと考えまして、今6つの教室をやっておりますけれども、童謡唱歌であったり手芸であったり囲碁であったりしておりますけれど。そういったところにもかく来てください、と呼びかけています。そして例えば童謡唱歌とか詩吟とかのグループは練習するだけでは満足できないというところがありますので、年に1回「なんなん祭」というのを開きまして、ステージに立ってもらおう。ステージで発表したことがない人が多くいますけれども、まず発表する喜びを感じてもらおう。そこには日頃広場で練習しているサークルの方にも友情出演して頂いたり、小学校の児童のクラブにも出演していただいて会全体を盛り上げる、ということもやっている。

もう一つは学校の行事、運動会、フェスタ、学習発表会には積極的に参加させていただいて、フェスタの時には歌声広場をやったり、運動会では一緒に走ったり、とにかく学校と地域の中にか

に溶け込むかということに、今苦労しておりますが、幸いにも失敗したようなケースはあまりありません。とにかくは成功しておりますが、あまり欲張って手を広げると自分で自分の首を絞めるのではないかな、と思いながら、半分自重しながら、あれもやりたい、これもやりたいと思って活動しております。

【野崎氏】 ありがとうございます。とりあえず今やっていることを着実に続けていこう、ということですね。では細見さんお願いします。

【与布土・細見氏】 私のところでは自治協議会の組織の中で、自然環境を考える「かえるの郷部会」とか、私の地区では与布土温泉があります。与布土温泉が山東町の「字極楽」という地番で、番地が108番地、ほんまにまさに極楽やな、という地番なので、「ごくらくの郷部会」というので温泉周辺の環境整備、集客のための活動をしています。

「みのりの郷部会」は読んで字のごとくで農村地なので、農地の荒廃というのを何とかみんなで復旧しよう、遊休農地をもう一度田畑へ返そうという活動しております。

「はぐぐみの郷部会」は子育てをお手伝いしています。先ほども言いましたとおり、50数名しか子どもたちがいないので、夏休みに「ちびっ子集まれ」とか、長期休暇の時には地域のお年寄りの方々が子どもたちを集めてタコづくりとか、地域のお年寄りの方がこれまで培われたノウハウを子どもたちに教えるとか、女性の方であればこんにやくづくりを教えたり、生け花教室をやられたりとか、色々一生懸命になって子どもたちに関わっています。

「すみやすい郷部会」ではお年寄りの方に住みやすい地域づくりということで、私たちの地区ではコミュニティバスを何とか考えようということで、今日もここにみえているところがコミュニティバスをやっておられるので、ぜひそれを参考にして、こっちも何とか取り組んでみたいと思っています。

「つながりの郷部会」は与布土地域の情報発信ということで、HPを作成したり、文書等を出してやっています。「すみやすい郷部会」の中ではAEDの講習会なども取り組んで実際、消防署の方から来ていただいて、半日講習を受けていただいたら、講師として資格なんかもらえる活動をしています。

県民交流広場事業の中でそういう活動をやりながら、34番のブースでやっているんですけども、よかったら茅葺きの民俗資料館だったです

けれども、そこは農家レストランとして、今、5月の連休にオープンして、ずっと今営業している状態です。また与布土温泉に行ったり、今日もたくさんパンフレットを持ってきておりますので、百笑茶屋・喜古里にも来ていただけたらと思いますので、PRします。

【野崎氏】 ありがとうございます。いろんな部会を作っておられますが。活動の広がりにつながっている、そんな感じですよ。

【瓦木・深津・山本氏】 メインが「場の提供」ですので、ばんばん次々というのではなくて、ただひたすら毎日開ける。お茶とかコーヒーとかはいっぱい要ります。受益者負担として温かいコーヒーとかは100円いただいて提供しますが、ただひたすら開け続ける。子どもたちの環境が過ごしやすいうようにということと、おもちゃや本や置くものはこだわってそろえています。

2つの小学校区でやっていますので、遠い方の小学校の子たちが来やすいように。2つの小学校が一緒に1つの中学校に行くんです。なので小さいときからいいものを一緒に見せてやりたい。本物の人形劇だったり、音楽を聞かせてやりたいということに、なるべく両方の学校に喜んでもらえるように費用を使いたいと思っています。

今は「礼法作法教室」という着付けのお教室と日本の伝統文化のお勉強しているんですが、参加が遠い方の深津小学校の方の参加者がむしろ多いというようなこともあります。参加者はイベントをしますと、ほんとにどちらがということではなく、近い学校より遠い方が多いということもあります。とにかくいろんな仕掛けで、今からは高齢の方が楽しめるようなことを思っています。落語会はとても喜ばれましたので、好評だったものをこれからも続けるということをしていきたいと思います。

【野崎氏】 さっきちらっとNPO法人化を目指しているとか。

【瓦木・深津・山本氏】 NPO法人化は進めないと駄目なんです。

うちは100円くらいしか収入がないです。大々的に稼げる目処は無いです。国やら県のいろいろな補助金をいただくことと、隣に公民館があるんですけども、目論みとしては公民館の指定管理と近所の指定管理を全部受けると。それと一体化して管理運営の費用をそこから何とか捻出しようと。印刷機とかがなかなか高いので。私の出来ることはお金集めと言われておりますので、

1人で楽しんでうろうろしておりますので、メンバーのためにそれだけはやりたいと思っております。

【野崎氏】 はい。どうもありがとうございます。じゃあ、岡田さん、お願いします。

【八多：岡田氏】 八多地区ではもともと町内演芸発表会をするステージが欲しいということで、県民交流広場事業で立派なステージを作っていただきました。これからいろんなイベントを考えて、その中でいろんな世代との交流を図っていきたいと思っています。ステージの近くには川が流れておりまして、そこは神戸市でも珍しく蛍が飛んでおりまして、そういうようなこととコンサートをやったり、いろんなこととこれから面白い企画が出来るのかなあと。それから小中学校と連携しながら発表の場が出来ればいいかなと考えています。

それからやっぱり八多町も神戸市といいながら、交通が不便なところでバスしかありませんので、人ごとではなくて過疎地の問題は我々も真剣に考えなければいけない、交通問題についても考えていかなければならないと思っております。

【野崎氏】 ありがとうございます。事業としての運営を継続していけるような目論みは大体立ちましたでしょうか？

【八多：岡田氏】 県民交流広場事業が今年2年目なんですけれども、1年目で建物を建てていただいたら、あとの運営についてはこれから考えていかなければならないんですけれども、これが終わったら終わりなのではなく、色々考えております。それは大丈夫だと思います。

【野崎氏】 ありがとうございます。寒いですし、会場の方から「うちはこんなこと悩んでいるけど、何かいい知恵ないかな」という話でもいいですし、「うちはこんなことをやっています」という自慢でも結構ですけども、お一人かお二人ほどあればと思います。

【会場】 与布土さんがコミュニティバスを運転されるとのことですが、簡単にご紹介いただけませんかでしょうか？

【与布土：細見氏】 今検討中ということで、すでにやられているところがそこにお見えになっている（丹波市鴨庄地区）広場がやっておられるので、うちもそこで勉強させていただきたいなあ

と、今資料をいただくように手配したところなんです。

【野崎氏】 両方で名刺交換して頂いて、相談しながら進めて頂けたらと思うんですけども。ではもう一人くらいいかがでしょうか。

【会場】 明石・魚住地区ですけども、私も4年になりますので、5年目についての心配とかは皆さんから声が出ていないのですが、事業を進めるには人、もの、金、情報。今の中で一番難しいのはお金だと思うんですけど、この事業を継続して欲しいという要望とか、スポーツ21、県民交流広場事業、その後は何や、ということが気になるんですけども、そういったことも含めて、お金だけについてどうお考えかお聞きしたいと思います。

【野崎氏】 はい。どなたか。今NPO法人格を取って、指定管理者でうまくやっっていこうというお話もありましたし。今すごく困っているんだという話は出なかったんですが・・・

【与布土・細見氏】 先ほども言いましたとおり、茅葺きの農家レストランで5月から9月末で締め切って、4カ月開けて10万円くらいしか収益が出ないんですけども、それを事業が続いている間に、県民交流広場事業に年間100万ほどの予算化している分を、農家レストランであげた収益でそのまま運営していけないかな、という思いはあって。お金のかからないコープ神戸さんの「ステーション」とか神戸新聞の「奥様手帳」とかにも取材に来ていただいて、載せて頂いて、結構興味のあるお客さんがありましたし、こここのころそういう雑誌に載るたびにお客さんも結構あって、うまく続けていけるよう願っているような状況です。

【野崎氏】 ありがとうございます。雨もポツポツ降ってきましたので、この辺りで閉めたいと思います。活動を始めて4年目のところもあれば、3年目のところ、1年目のところ色々だと思うんですが、運営費の補助がある間に全て先にどうすればよいか、いろんな試みを十分させていただくことが大事だと思います。いろんな事例が出ておりますので、ブース回って頂いて、勉強して帰ってください。どうも4人の方ありがとうございます。これで「曇り空」フォーラムを終わります。

1-3 県民交流広場コミュニティ賞



1 県民交流広場コミュニティ賞 事前説明会

時 間：10時～ ◆ 場 所：講堂

〔 野崎委員

コミュニティ賞選考にあたってあいさつ 〕



どうもみなさんこんにちは。選考委員というそれぞれ活動の優劣を決めるというように思われますが、そういうことではないので、安心してください。県民交流広場は、全県にどんどん広がっており、21年10月現在で、62%の地区で、広場がスタートしています。

スタートはしたけれども、「これから運営どうしたらいいのか」「うちは今こんなことで困っている」ということが、どんどん出始めています。午後からの交流会なども通じて、「地域でこのように連携している」「このような運営をおこなっている」などのアイデアやいろいろな情報・知恵を交換するのが、今日の一番の目的です。

その中で、いろんな角度、選考のポイントに応じて、優劣ではなくて、おもしろいなという地区を選んでいきます。みなさんは、賞をもらう地域

や、自分の地域の課題と合う地域を、集中的に回っているいろいろな話をしてはどうかと思います。

今日は長丁場になりますが、よろしくお願いします。

2 県民交流広場コミュニティ賞 表彰式

◆ 時 間：14時15分～ ◆ 場 所：講堂

〔 兵庫県知事 あいさつ 〕

今日は皆さんご苦労様でした。初めての交流広場の交流会だった訳ではありますが、いかがだったでしょうか。先ほどもシンポジウムの際に私が述べたのですが、それぞれ地域の特色があった交流広場事業を展開されておられます。その特色を一堂に会して見てみると、共通するところと、それからそれぞれの地域が持っている地域の特性とが両方がでているなという思いがいたします。

共通しているところは、地域の方々は、地域を自分たちが支えていくんだ、地域の元気は自分たちが作っていくんだという意気込みで活動を展開していただいているということだと思います。違っているところは、それは地域の差ですから、当たり前。これは違って当たり前だと思います。しかし、共通しているところを、ぜひ、皆さん輪を広げていただいて、さらに頑張っていただければ幸いです。

このような機会が、県民交流広場は今500ぐらいある訳ですが、県下のそれぞれの交流広場事業が刺激あって、そして、それがさらに大きな運動として地域おこしに繋がっていただければ嬉しいなと思います。

これからの皆さんのますますのご活躍を心か

ら祈念いたしまして、一言の激励とさせていただきます。頑張ってください。

にしわき つま ひえ

【いきいき広場賞：西脇市西脇・津万・比延地区】

今回、私たちは、丸1年がたったばかりの団体でございます。私たちは、胸にひょうたんをつけておりますが、栽培から加工まで10人の会員が、ひょうたんづくりに挑戦して、今年1年で、はじめてつくりました。また、男の料理教室も、8名の会員で、月1回開催しております。この地区は、8か村でなりたっております。まだ、小さな区域ではありますが、みなさんの力とともにがんばっております。今後ともよろしくお祈りいたします。

じんたい

【なるほど広場賞：南あわじ市神代地区】

みなさん、こんにちは。淡路島の最南端、南あわじ市というところからまいりました。神代地区を代表いたしまして、今日は、なるほど賞をいただき、本当にうれしいです。どうもありがとうございます。私は、淡路島がとても好きで、淡路島で生まれて育ったことが、とても誇りです。洲本で生まれ、神代にお嫁に行き、神代が、今とても好きです。

地域のことを大切に思う気持ちから、今回の県民交流広場を申請しました。いろんな考え、いろんな生き方の人が出て、なかなか今、一つにつながるということが、とても難しい時代になってきました。だけど、心の中を覗いてみると、みんな本当は、とても人とつながりたがっているのだということが、この県民交流広場の活動を通して、つくづく感じるがあります。私はもともと人間が大好きなので、ときどき意地悪されたり、裏切られるようなことがあってもやっぱり、人が大好きなんです。人間に生まれて、人の中で、たくさんの人に育ててもらって、やっぱり一生終わるまで、いろんな人と、たくさんの人と出会っていきながら、生きていきたいと思っています。

「こんにちは」、地域の中で出会った時に、「元気」「今日は、元気だった」と、お互いに声をかけられるようなそんな地域を目指していければいいなあと思っています。そのために、みんなのことを信じること、「きっと心は一つになれるよ」「みんな心一つにがんばれるよ」という、そういう気持ちを忘れないで人と出会っていきたくと思っています。本当に、県民交流広場で、良い活動をさせていただきました。どうもありがとうございます。

てんまみなみ

【みんなで広場賞：稲美町天満南地区】

稲美町の天満南から来ました三井津と申します。本日は、大変重たい賞をいただきまして、これをいただいた限りは、とてもじゃないけど、足

が抜けないなあと観念しているところがございます。私たちの地域は、少子高齢化がもっとも顕著な地域でございます。でも、こういった時代だからこそ、少子高齢化を逆に武器にして、みんなの集まる場所をつくろうというのが、我々のモットーでございます。楽しく、明るく、賑やかにをモットーに活動していますけれども、これからも、今日の賞にまけないような活動を展開していければと思っております。

とはいいいながら、あまり一生懸命やりすぎて、肩の荷が重すぎて、ずっこけることのないように、これからも地道に、一步一步、地域のみなさんと活動して参りたいと思います。どうかこれからも皆さんの温かいご支援をお願い致します。どうも今日はありがとうございました。



はった

【すくすく広場賞：新温泉町八田地区】

本日は、思いがけない賞をいただきました。私は、先般、11日に、兵庫県自治連合大会がございまして、その時に、10年区長をしたということで、自治賞を頂きました。井戸知事さんから、手渡されたのは、これで2度目でございます。なぜ、そういうことを申しあげたかといいますと、実に苦労したあげくに文化交流会を立ち上げたその当時のことを、区長として、小学校区の七つの区長が一致結束するように努力してやったことを、思い出したので、しゃべらせていただきました。

ただ、5年たったら終わるんだなあということ、最初思った時に、5年で終わらせるようなことだったら大変なことになるなあ。昨年頃から、3年ですんだら、以後どうするかということに、今は一生懸命になっております。

本日は、初めてのことで、事務長に引っ張られて、ここに来てみて、大変感激致しました。最初にこういう賞をいただき、励みになります。これからも力いっぱい頑張っていきたいと思っております。今後とも一つよろしく応援ください。ありがとうございました。

〔 しっかり広場賞：西宮市 瓦木・深津地区 〕

しっかり広場賞をいただきましたが、私以外は、しっかりしているメンバーで運営しておりますので、メンバーと地域にありがたくいただいたと思っております。本日はありがとうございます。課題が地味であれば、コツコツやるような地域が、ほとんどだと思いますので、どこがいい、どこががんばっている、ということもないと思います。私どもも、西宮市の小学校の敷地を借りているので、土地を貸していただいた西宮市、2600万円の助成をいただいた兵庫県、地域の皆さんの協力をいただいて、児童が通学するのに遠い小学校区がある中、2つの小学校区で、私がこういう風にしたという思いに応えて頂いた結果であり、このように何がかけてもできなかったと思います。

皆様に本当に感謝しています。今までは、自分の思い、皆さんの思い、勢いで、きてしまいましたけれども、これからは少しずつ、足元を固めながら、地域の子どもたちが、先々皆さんのお役に立つように、子どもを育てるということが、私たちの最終的な目標です。少しでも社会のためにお役に立つ子ども達を育てるためにこれからも頑張っていきたいと思っております。本日はありがとうございました。

〔 野崎委員 講評 〕

みなさん長時間にわたってお疲れ様でした。県民交流広場事業というのは、そういう場所をつくって、みんなが交流しようというのが、大きな目的だったと思います。

今日は、県民交流広場は、一つの視点でみるものではなく、地域ごとに、いろいろ取組方があることから、5つ視点でいろんな賞を贈りました。最初の選考のごあいさつでも申し上げましたが、今回の賞は、活動の優劣をつけるわけではなく、それぞれの部門からみて、これは面白いな、いわば人気投票で、おもしろいなあという地域を選んでいただいたということだと思います。

本日の行事全体が交流会ですので、皆さん他の活動をみて得られるものがたくさんあったと思います。それを持ち帰っていただいて、県民交流広場事業のもう一つ大きな側面である運営とかマネジメントを自分たちでやっていくことが、これからの大きな重要な要素になっていくと思います。皆さんの地域全体の運営へと広げられるように、その予行演習、準備予習として、県民交流広場事業の運営やマネジメントをどんどん進めていただきたいと思っております。

今後皆さんががんばって活動を続けられることをお祈りして、終わりにしたいと思います。どうもありがとうございました。お疲れ様でした。



県民交流広場コミュニティ賞について

1 趣 旨

県民交流広場事業において、地域を舞台とした拠点づくりと多彩な活動を通じ、元気と安心のコミュニティづくりに貢献した広場に対し、「県民交流広場コミュニティ賞」を授与することにより、地域の意欲を高め、さらなる広場活動の活性化とともに、参画と協働によるコミュニティづくりに資することを目的としています。

2 実施の方法

(1) 選考委員

県民生活審議会委員、ひょうご市民活動協議会代表	野崎 隆一
全県連絡協議会代表世話人	西尾 英昭
全県連絡協議会副代表世話人	岡田 孝久
全県連絡協議会副代表世話人	向井 祥隆
県民局長会代表・北播磨県民局長	杉本 明文
嬉野台生涯教育センター所長	田口 章
企画県民部県民文化局長	梅谷 順子

(2) 選考基準

- ① いきいき広場部門
(地域性：地域の個性、地域資源を生かした取組が顕著である。)
- ② なるほど広場部門
(独創性：ユニークなアイデアや独創的な取組が顕著である。)
- ③ みんなで広場部門
(多様性：多くの住民や団体等を巻き込んだ取組、効果的な情報発信、地域を越えた連携が顕著である。)
- ④ すくすく広場部門
(継続性：新たなリーダーの養成や安定的な財源確保の工夫などの取組が顕著である。)
- ⑤ しっかり広場部門
(組織運営の堅実性：民主的な意思決定機構や幅広い住民の意見聴取など組織運営上の取組が顕著である。)

地域コミュニティ・アワード 2009

北はりま絆プロジェクト 交流ひろば大会

うれしの台で学ぶ世代間交流フェスタ



交流、共有、そして継承。

地域コミュニティ・ルネッサンス

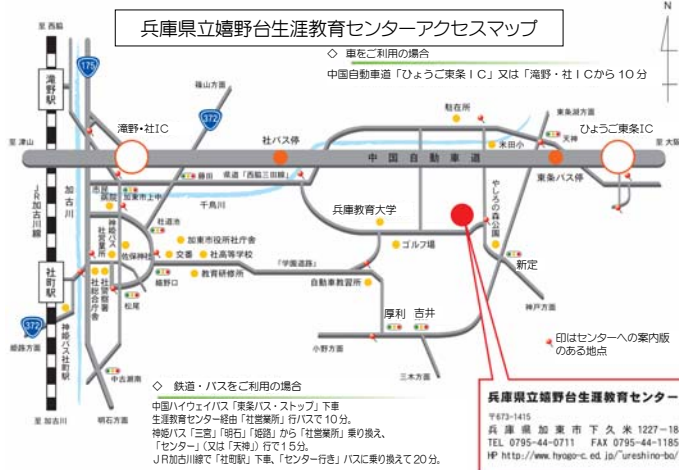
日時：平成21年11月22日(日)
10:00 ~ 15:00

場所：県立嬉野台生涯教育センター



主催

県民交流広場全県連絡協議会
兵庫県・兵庫県北播磨県民局
(財)兵庫県生きがい創造協会
兵庫県立嬉野台生涯教育センター



地域コミュニティ・アワード 2009

県民交流広場を通じて培われた人と人とのつながりや活動を継承し、事業の成果を生かすために、全県規模で、広場活動にたずさわっている方がお互いに活動のノウハウや課題を共有し、意欲を高める交流の場づくりとして地域コミュニティ・アワード 2009 を開催します。

北はりま絆プロジェクト 交流ひろば大会

「家族の絆」「生活(くらし)の絆」「地域の絆」の3つの絆を深め、ともに支え合う北播磨づくりをめざし、地域の県民交流広場をはじめ、生活研究グループ、市町等が出展・参加し、人々の交流の輪を広げます。

うれしの台で学ぶ世代間交流フェスタ

県立嬉野台生涯教育センターの緑豊かな自然環境を生かし、子どもから高齢者まであらゆる世代がふれあいながら、さまざまなプログラムを地域団体等と連携を図り、協働で展開し、環境について考える機会とします。

アサヒビール株式会社、株式会社アシックス、稲見酒造株式会社、うれしの友の会、株式会社神明、株式会社地球ホテルプロジェクトチーム、日本体験学習研究センター株式会社、こんだ薬師温泉「ぬくもりの郷」、ふるさと工房夢蔵、みき嶺山温泉「森の湯」、株式会社宮下木材、ヤマヒデ食品株式会社、吉川温泉「よかたん」、レストランうれし野

協賛企業 (五十音順)

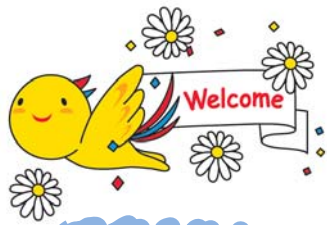
地域コミュニティ・アワード 2009 他について子どもから大人まで、学びの場として利用されている県立嬉野台生涯教育センターを舞台に、地域づくりにはかかせない“交流”と“地域コミュニティ”をキーワードに、地域づくりに携わっている方々のふれあいの空間をご提供します。

広場の交流を目指した「地域コミュニティ・アワード 2009」絆をテーマに「北はりま絆プロジェクト 交流ひろば大会」環境を体験する「うれしの台で学ぶ世代間フェスタ」の3つ交流の空間を融合させました。すばらしいひとときをお過ごし下さい。

交流プログラム

メインステージ(中庭)	交流・活動コーナーなど	研修室ほか
10:45 ~ オープニングセレモニー 天元太鼓	10:00 説明会(講演) ブース展示 10:05 ~ 12:00 県民交流広場 事例発表選考	10:00 学習体験 10:15 ~ エコ線香づくり
11:05 ~ 11:25 県民交流広場全県連絡協議会設立総会	11:40 ~ (講演) 播州歌舞伎	ソーラーカー (随時実施)
12:15 ~ 県多紀ハピネス		
13:00 ~ 13:50 青空フォーラム コーディネーター: 野崎隆一氏	14:00 ~ (講演) 小野高校ダンス アワード表彰 (抽選会) 15:00	13:00 ~ ソーラーカー

≪「アワード 2009」一般参加者投票に参加しよう! 10時から12時まで≫
アワード 2009 では、一般参加者の方の投票も考慮し、表彰団体を選考していきます。一緒に、交流やコミュニティを感じてみませんか?
≪県民交流広場スタンプラリーに参加してプレゼントをもらおう!≫
アワード 2009 の展示ブースを 10 箇所以上まわられた方は、くじ引き抽選会にご参加いただけます。地域のお米や温泉チケットなどのプレゼントが用意されています。
※ 一般参加者投票とスタンプラリーの詳細は、折込の案内をご確認ください。



うまいもの市

- 21 つつじ会作業所 F
- 22 レストランうれし野 F
- 23 箸荷紅茶の会 K
- 24 ふるさと工房夢蔵 K
- 25 みつばグループ K
- 26 わさびグループ K
- 27 企業組合 彩雲 K
- 28 企業組合 黒っこマザーズ K

朝市

- 29 西脇市芳田地区 K
- 30 西脇市西脇・津万・比延地区 A
- 31 多可町大和地区 K

実演・活動コーナー

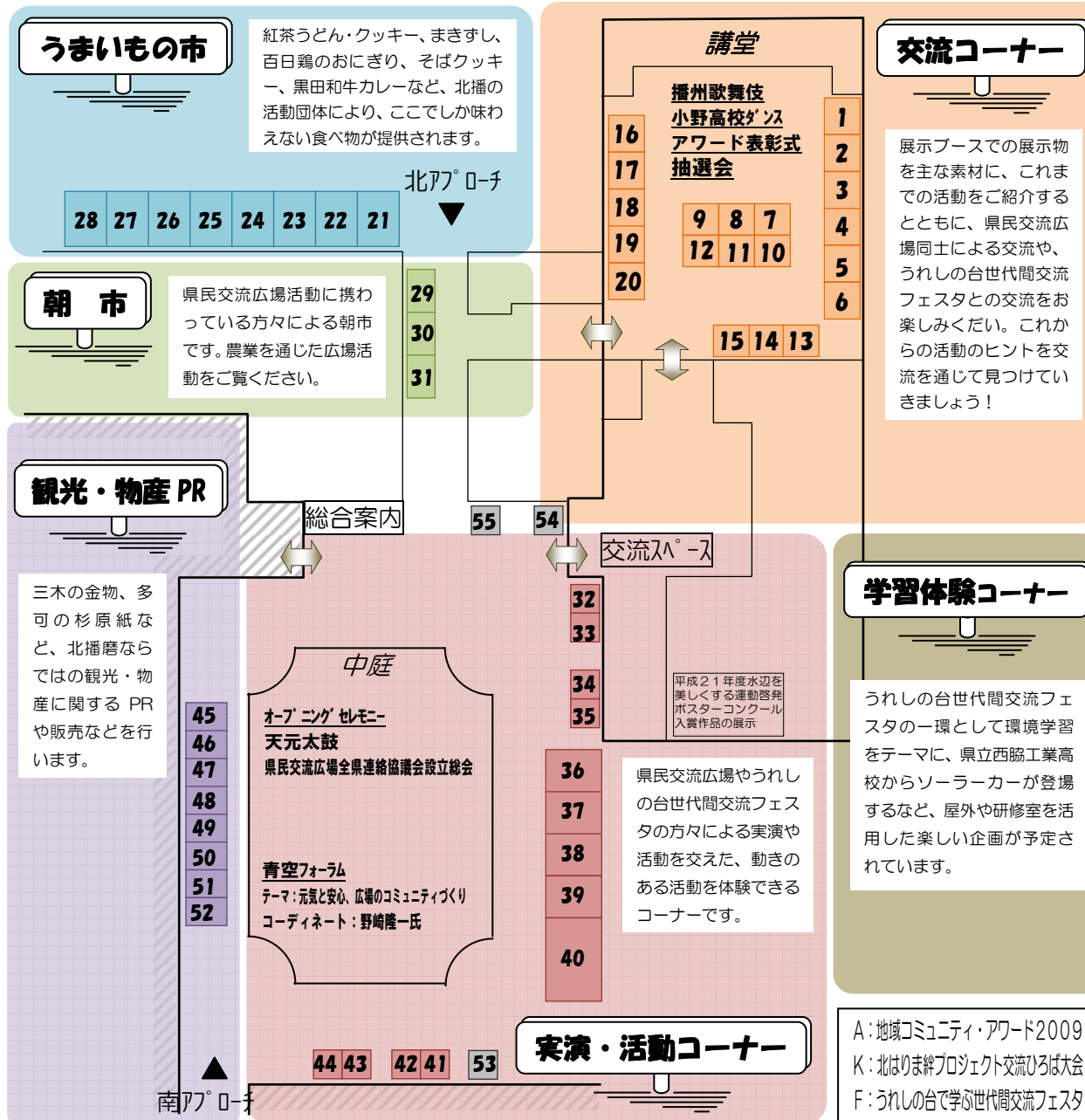
- 32 小野市小野地区 A
- 33 三木市細川地区 K
- 34 朝来市与布土地区 A
- 35 新温泉町八田地区 A
- 36 篠山市日置地区 A
- 37 丹波市鴨庄地区 A
- 38 洲本市堺地区 A
- 39 南あわじ市神代地区 A
- 40 遊遊クラフト F
- 41 優の会 F
- 42 うれしの絵手紙同好会 F
- 43 織り姫 F
- 44 県立社高校 F

観光・物産 PR

- 45 うれしの友の会 F
- 46 三木市 K
- 47 加西市 K
- 48 加東市 K
- 49 多可町・杉原紙研究所 K
- 50 小野市 K
- 51 太閤の渡し K
- 52 ぶらっときすみの K

地域コミュニティ・アワード2009

～ 参加団体と会場の配置 ～



交流コーナー

- 1 神戸市垂水区桃山台地区 A
- 2 神戸市北区八多地区 A
- 3 西宮市瓦木・深津地区 A
- 4 芦屋市大原地区 A
- 5 伊丹市稲野地区 A
- 6 宝塚市逆瀬台地区 A
- 7 稲美町天満南地区 A
- 8 明石市魚住地区 A
- 9 たつの市香島地区 A
- 10 宍粟市鷹巣地区 A
- 11 加西市富田地区 K
- 12 加西市宇仁地区 K
- 13 加東市鴨川地区 K
- 14 姫路市青山地区 A
- 15 姫路市筋野地区 A
- 16 うれしの学園生涯大学 里山環境調査グループ F
- 17 うれしの学園生涯大学 なごみ会 F
- 18 うれしの学園生涯大学 まちづくりグループ F
- 19 国際ソロプチミスト北播磨 F
- 20 うれしの風呂敷同好会 F

地域づくり

- 53 地域SNS ひよこむ A
- 54 (財)兵庫県健康財団 A
- 55 県民交流広場(県民生活課) A

学習体験コーナー

- 56 株式会社 宮下木材 F
- 57 環境21の会 F
- 58 県立三木北高校環境研究部 ECO-P F
- 59 株式会社 地球 F
- 60 有限会社 マイトイ F
- 61 西脇アイシテル PROJECT F
- 62 うれしの生活創造プラザ F
- 63 県立西脇工業高校機械工学部 F
- 64 うれしの学園生涯大学 いっぶく会 F
- 65 播磨之國天元太鼓 F
- 66 県立小野高校ダンス部 F
- 67 多可町中央公民館播州歌舞伎クラブ F

※ 56 から 67 の体験学習コーナーは、研修室や中庭・講堂ほかで実施されます。

A: 地域コミュニティ・アワード2009
K: 北はりま絆プロジェクト交流ひろば大会
F: うれしの台で学ぶ世代間交流フェスタ

県民交流広場スタンフラリー & アワード投票券

スタンプを10箇所以上集めると、午後2時30分からの抽選会に参加できます！

① スタンプ 神戸市垂水区桃山台(ももやまだい)地区

地域交流の場となる「文化発表会」や、子供たちの参加する「ふれあいカーニバル」の活動を企画、実施することで、地域力向上や安全安心のまちづくりを目指しています。そのためには、老人クラブや自治会、学校も含めた地域諸団体の連携を重視し、若手人材の登用にも力を入れています。



② スタンプ 神戸市北区八多(はた)地区

八多町では以前から文化祭で展示とともに、民謡や大正琴・太鼓などの演芸発表会を開催してきました。そんな中で、発表する舞台がほしいという声を受けて県民交流広場に応募、20年度に指定を受け、今年9月に野外ステージが完成。10月4日に披露会を行い、10月31日・11月1日の文化祭ではこけらおとしの発表会を行った。すばらしい舞台が出来たので、住民のさらなる交流を目指します。



③ スタンプ 西宮市瓦木・深津(かわらぎ・ふかつ)地区

「毎日開館」が一番のこだわり。2つの小学校区が合同で運営。お盆・正月休み以外、土日も含め10時から19時まで、スタッフが来られた人を笑顔で迎えます。地域活動の拠点として団体間の協働をスムーズにし、地域のだれもが集えるみんなの居場所「ぼっかほかひろば」けん玉の日、お手玉の日、ぼっかほか寄席、コンサート、お茶会、多彩な催しで、新しい地域コミュニティの展開を目指します。



④ スタンプ 芦屋市大原(おおはら)地区

平成16年度に、手探りでスタート、17年度から月2回「ほんわかカフェ」を開店、地域住民の交流の場として多くの方の来店がありました。朗読・歌声喫茶・手作り品等のミニイベントも企画し、成果品も展示しています。それを機に、健康体操倶楽部などが独立し、活動の広がりを見せています。「ほんわかカフェ」はその役目を終え閉店しましたが、倶楽部等は活動規模を拡大し、地域コミュニティを深めています。



⑤ スタンプ 伊丹市稲野(いなの)地区

高齢化や核家族化が進行する中で、高齢者や障害者の地域生活を支える仕組みづくりに地域一丸となって取り組んでいます。県民交流広場で整備した「稲小地区助け合いセンター」は、地域ボランティアの力で運営され、住民の憩いの場であるとともに、高齢者や障害者の要請に応じて日常生活のサポートや電話相談を行うほか、子育て支援などにも力を入れています。



⑥ スタンプ 宝塚市逆瀬台(さかせだい)地区

自然環境に恵まれる一方、高低差が100mに及び起伏の激しい地形のため、小学校を中心に自治会館も利用しながら、高齢者でも活動に参加しやすいよう工夫しています。HPやブログを活用した情報共有の仕組みづくりにより住民の関心が高まり、ふれあい喫茶やミニシネマ、地元の宝である「裏山」を活用した四季折々の緑と花がある散歩路づくりなど、多種多様な活動を展開しています。



⑦ スタンプ 稲美町天満南(てんまみなみ)地区

少子高齢化が顕著で既存集落と団地が混在する地域において、相互の交流機会の創造と提供をテーマに活動しています。定例行事、毎月メニューを変えた体験教室、パソコン教室、世代間や利用者交流イベント、学校行事への積極的参加と児童の広場利用の促進など学校を地域活性化の拠点として活用、利用者は平均1300人/月以上で、全町に及んでいます。



⑧ スタンプ 明石市魚住(うおずみ)地区

わいわい広場「喫茶くすのき」にコーヒーの香りが立つと、いままでの話し声が少し小さくなる。「出不精のわたしがうっかりと“見事な菊ね”と、おとなりさんに誘われて・・・」やがて「ボランティアで流した汗は心地よし！またあと・・・」と、スクールガードおじさん達のほっとタイム。この場からは『地域』の夢が語られ、子供達への思いがつつられ、明日へ続く。



30 スタンプ 西脇市西脇・津万・比延(にしわき・つま・ひえ)地区

比延地区の「瓢箪の里比也野」のまちづくり協議会は、①地域の生産物販売と常設美術展を設置した「喫茶へそでちゃ」の運営、②地域美化推進のため、公園や駅、道路周辺への花の植栽、③地域住民の世代間交流を目的とした「比也野よってけライブ」を企画(年5回)、④比延地区8自治会、学校園、各種団体活動の情報を発信、以上の活動を中心に比也野(比延地区)が元気になるための様々な仕掛けを考えています。



32 スタンプ 小野市小野(おの)地区

平成16年度に小野地区地域づくり協議会が発足し、地域コミュニティを活性化するため、小野陣屋まつり、ミニコンサートなどを開催しています。平成19年には「コミュニティレストラン陣屋」がオープンし、食を通じて地域住民との交流を拡大し、地産地消に取り組んでいます。コミレスを中心に自主的・創造的な地域づくり活動を推進しています。



県民交流広場 投票時間：10時から12時

アワード投票券！

一般の方もアワード選考に参加できます！
対象の20地区の中から、お気に入りの2地区を選び、プ-ス備えつけの投票箱に投票ください！

投票の目印は、看板右上の「アワード2009」

県民交流広場 投票時間：10時から12時

アワード投票券！

一般の方もアワード選考に参加できます！
対象の20地区の中から、お気に入りの2地区を選び、プ-ス備えつけの投票箱に投票ください！

投票の目印は、看板右上の「アワード2009」

県民交流広場スタンプラリー & アワード投票券

スタンプを10箇所以上集めると、午後2時30分からの抽選会に参加できます！

姫路市青山(あおやま)地区

14 スタンプ

当地区では、「子供が主役の安全な地域づくり」を目指し、地域内でのフォーラム、ワークショップ、アンケートなどを通じて地域課題や地域住民の意向を把握し、そのニーズに応じた子育て支援や多世代間の交流事業を行っています。また、事業参加者には実費負担を求め、それを基に青山基金を設置するなど、地域住民全員で県民交流広場事業を支えるための土壌を築いていきたいと考えています。



姫路市筋野(あぞの)地区

15 スタンプ

当地区は姫路市の旧夢前町内にあり、一人暮らしや夫婦二人だけの高齢者の家庭が年々ふえています。そのため、生活の中での活動が少なくなっており、健康と交流をキーワードに、ふれあい喫茶、映画鑑賞会、課題に即した講演会などを開催しています。手探りで始めた活動ですが、地域の方々に喜んでいただいております、それを励みにお世話をするメンバーも楽しくやっています。



たつの市香島(かしま)地区

9 スタンプ

活動拠点の整備により「ふれあいと元気なまちづくり」をめざして、健康づくりを中心とした1人1クラブ参加を目標に12クラブが定期的な活動を展開している。また、まちあげてのイベントは春はクリーン作戦と消火訓練、夏は盆踊り大会、秋は秋祭りりと里山散策会、冬はとんどと、成果は上々です。



宍粟市鷹巣(たかのす)地区

10 スタンプ

伝統芸能チャンチャコ踊りを伝承する千種東小学校は小規模で少人数ではあるが、ふるさと鷹巣の未来を背負って立つ東っ子、鷹巣の宝とも言うべきこの子供の健全育成を願って、地域住民総掛かりでかかわって行く取組こそが、魅力と活力に満ちたふるさとづくりに繋がるよう交流広場事業に取り組んでいます。



朝来市与布土(よふど)地区

34 スタンプ

1500人の地域住民が「皆、家族！仲間！」という気持ちで、困っていることがあればお互いに助け合いながら地域づくりを進めています。小学校児童を対象にした学童保育や、月に2回開催するふれあいサロンなど、地域内の子どもから高齢者までが一緒にになり、様々な活動を通して交流を深めています。誰でもが地域づくりに参加している地域自治組織として県内外から少しずつ注目をされています。



新温泉町八田(はった)地区

35 スタンプ

平成18年度に県民交流広場事業で、食品加工施設「おふくろ工房」を設備し、主婦14名で「若あゆグループ」を立ち上げ、旬の野菜など地元農産物をふんだんに使いながら、地産、地消、食育の推進を目指し「おふくろ弁当」を作っています。また、特産品づくりとして、ジャムや佃煮などの食品加工も行っており、製品は、県のブランド商品に認定されています。



篠山市日置(ひおき)地区

36 スタンプ

寛政年間に開設された石門心学の学問所「中立舎(ちゅうりゅうしゃ)」跡を、地域のシンボリックな拠点として甦えらせ、「学びの里」として栄えてきた歴史的・地域的特性を生かし、地域づくり、新たな文化創造の礎となるよう県民交流広場事業を活用して改修しました。講座による地域文化の伝承や高齢者を中心に「いきいき交流サロン」による世代間の交流活動を展開しています。



丹波市鴨庄(かものしょう)地区

37 スタンプ

運行5年で利用4倍
高齢者の交通手段をどう確保するか。丹波市市島町鴨庄地区で住民が運営する「鴨庄ふれあいバス」が地域の需要をつかみ、運行開始から5年で利用者は約4倍に増えた。行政の財政負担が大きいコミュニティバス(コミバス)に代わる新モデルとしても注目されています。



洲市堺(さかい)地区

38 スタンプ

「光と元気発信 にぎやか大好き」のキャッチフレーズのもと、地域住民の交流イベント「秋の夜の集い」を開催し、ふる里かえり提灯など800余りの提灯を掲出し地域の連帯感を醸成。また、公募によりその年の世相を提灯で描く「赤提灯大文字」も年末年始の風物詩となっています。地域情報紙やイベントなどを全戸配布するなど多彩なアイデアで地域交流・活性化を精力的に進めています。



南あわじ市神代(じんだい)地区

39 スタンプ

「シカ対策から自然環境を考えよう」と題して、神代地区で深刻な問題となっているシカ等の獣類被害対策について取り組んでいます。課題解決に向けた活動の他、「自然との共生」「人と自然がどうかかわってきたのか」を考える「サイエンスカフェくまろ」を神戸大学のサイエンスショップと連携して年間10回開催しています。



県民交流広場スタンプラリーに参加してプレゼントをもらおう！

県民交流広場スタンプラリーに参加し、
スタンプを **10箇所以上** 集めていただいた方には、
くじ引き抽選会において地域のお米や温泉券などをプレゼントいたします！
抽選会は、午後2時30分より実施しますので、是非ともご参加ください！

2 全県連絡協議会及び地域ネットワーク会議

〔 設立の趣旨 〕

広場事業を通じて培われてきた人と人とのつながりや拠点のにぎわいが将来にわたって続いていくよう、事業の成果やノウハウを広場同士で引き継ぎ、共有していくことが大切です。そのため、これまでも広場フォーラムやネットワーク化支援事業などを通じて、広場同士のつながりを強化してきました。

そのような中で、県民交流広場の実施地区が全校区の過半数となり、地域を越えた交流に対する気運が高まってきたことから、県民局ごとにすべての広場が参画し、広場運営の相談、情報交換ができる「地域ネットワーク会議」を設置するとともに、その代表者が参集して、成果の共有や共通課題の検討、広場全体の交流の場づくりを進める「全県連絡協議会」を設置することにしました。

なお、「地域コミュニティ・アワード 2009」は、全県連絡協議会の企画、協議に基づき、全県レベルで広場が相互に活動のノウハウや課題を共有し、意欲を高める交流の場づくりとして実施しました。

〔 全県連絡協議会の実施状況 〕

日 時・場 所	内 容
平成 21 年 10 月 28 日 県立嬉野台生涯教育センター	《全県連絡協議会設立準備会》 全県連絡協議会の設立にあたり、代表世話人を小野市小野地区の西尾英昭氏、副代表世話人に神戸市北区八多地区の岡田孝久氏、篠山市日置地区の向井祥隆氏とし、地域コミュニティ・アワード 2009 において全県連絡協議会設立総会を実施することとした。 あわせて、地域コミュニティ・アワード 2009 で実施するアワードや青空フォーラムについて検討し、また、当日のブース展示について現地確認等を行った。
平成 21 年 11 月 22 日 県立嬉野台生涯教育センター	《全県連絡協議会設立総会》 地域コミュニティ・アワード 2009 のオープニングセレモニーに引き続き、全県連絡協議会設立総会として、協議会代表世話人の西尾氏より設立宣言をいただいた。

□ 21 年度 地域ネットワーク会議の開催状況

県民局名・日時	場 所 ・ 主 催	テ ー マ ・ 概 要
神戸 11/7(土) 10:00～ 11:50	クリスタルホール 神戸県民局 (広場：44 地区参加)	《地域活動井戸端会議》 神戸市桜が丘地区、篠原地区、つづじが丘地区の3地区より、事例発表をいただくとともに、神戸まちづくり研究所・野崎隆一氏をコーディネーターに、「利用者の拡大」「担い手の充実」「広場での事業おこし」「地域情報の事業化」「安全安心のまちづくりについて」の5つのテーマに分かれ、グループワークにより井戸端会議を行った。
阪神南 2/23(火) 13:30～ 16:00	尼崎市立労働福祉会館 阪神南県民局 (広場：48 地区参加)	《阪神南地域県民交流広場ネットワーク交流会》 (社)兵庫県子ども会連合会常務理事・事務局長速水順一郎氏より講演をいただくとともに、県民交流広場実施地区(尼崎市武庫地区、西宮市東山地区、芦屋市大原地区)より事例発表いただいた。 また、「魅力あるプランづくりとPRの工夫」「新たな人材を育てる方策等」等をテーマにグループ討議を行い、交流を行った。
阪神北 3/13(土) 10:00～ 11:50	宝塚市立地域利用施設西谷会館 阪神北県民局・宝塚市西谷地区まちづくり協議会 (広場：15 地区参加)	《県民交流広場交流会》 活動報告の①として、県民交流広場の助成期間の5年が経過した宝塚市西谷地区に5年間の活動をふり返っていただくとともに、活動報告②では、地域コミュニティ・アワード2009に参加した宝塚市逆瀬台地区、伊丹市稲野地区に地区での取組を報告いただき交流会を実施。
東播磨 9/28(月) 13:30～ 16:30	東播磨生活創造センター「たばす」 東播磨県民局 (広場：20 地区参加)	《「今後の県民交流広場について」の検討会》 明石市魚住地区、稲美町天満南地区より活動事例発表をいただき、「地域コミュニティ・アワード2009」の管内代表とすることを決定した。 川島憲志をファシリテーターに、「『県民交流広場』のこれまで・これから」をテーマに相互の意見交換を行い、課題の共有や交流が図られた。
北播磨 2/18(木) 13:30～ 16:30	県立嬉野台生涯教育センター 北播磨県民局 (広場：27 地区参加)	《北播磨地域ネットワーク会議》 丹波の森研究所の横山宜致氏より「県民交流広場の課題と展望」と題して講演いただいたあと、管内の広場実施団体(加西市宇仁地区、加東市上福田地区)の事例発表、管外から篠山市城南地区の事例発表をいただいた。 その後、「私の広場の自慢できるところ、困っているところ」をテーマに意見交換会を実施した。
中播磨 3/1(月) 13:30～ 15:50	姫路職員福利センター 中播磨県民局 (広場：19 地区参加)	《県民交流広場中播磨ネットワーク会議(交流会)・中播磨地域づくり活動応援事業「交流・報告会」》 県民交流広場5地区、地域づくり活動応援事業9団体から事業報告をいただいたのち、支援委員会委員から今後の活動へのアドバイスを得た。終了後、茶話会を行い参加者同士の意見交換・交流会を実施した。
西播磨 9/15(火) 13:30～ 16:00	西播磨文化会館 西播磨県民局 (広場：19 地区参加)	《地域の資源を活かすまちづくり研修・交流会》 県民交流広場実施地区(鷹巣、香島地区)より事例発表をいただくとともに、(株)環境緑地設計研究所辻信一氏を講師に迎え、「まちづくり」「地域活動の進め方」などの講義をうけるとともに、「わがまちの地域資源」「わがまちの問題点」をテーマにしたワークショップを行い、研修・交流会とした。
但馬 3/9(火) 13:00～ 16:00	但馬長寿の郷 郷ホール こころ豊かな美しい但馬推進会議、但馬県民局 (広場：27 地区参加)	《たじま地域づくりフォーラム》 (財)OAA 専務理事の清水勲夫氏をコーディネーターに、神戸市西区井吹台自治会連合会会長坂本津留代氏から、地域安全まちづくりにかかる活動を発表。パネルディスカッションとして、県民交流広場事業実施団体(与布土、八田)ほかが加わり、地域づくりについての意見交換を実施。
丹波 2/26(金) 3/2(火)	丹波県民局 (広場：28 地区参加)	《但馬地域広域活動組織連絡会議》 丹波市内地区は、県民交流広場事業実施団体の事例発表とともに、手塚山大学大学院中川幾郎氏より活動助言をいただいた。 篠山市内地区は、県民交流広場事業実施団体の事例発表とともに、丹波の森研究所森岡武氏より活動助言をいただいた。
淡路 7/26(日) 13:30～	淡路文化会館 淡路県民局 (広場：14 地区参加)	《県民交流広場等ネットワーク化支援事業》 (第1回)広場実施の14地区が、活動内容をパネルとして持ち寄り展示を行った。 あわせて、各地区による事例発表する場も設け、淡路文化会館・生活創造活動専門員による講評や、参加者同士の質疑応答を行い、相互の理解・交流を深めた。 最後に、「地域コミュニティ・アワード2009」「全県連絡協議会」の淡路代表者を投票等により決定した。
淡路 2/6(土) 10:00～ 14:30	淡路文化会館 (広場：12 地区参加)	(第2回)第2回：午前にはNPO法人南あわじ情報コミュニティ代表西尾卓二氏を招き、「広場の広場@淡路島で情報発信」と題したブログ研修を、商工印刷株式会社企画デザイン部次長香東光浩氏には、「読んでもらえるチラシの作り方」について講義を受けた。午後は淡路県民局が行う「あわじラウンドテーブル」を開催し、交流広場以外の地域活動団体とも交流した。

3 コミュニティ応援隊（CAT）の派遣

〔 コミュニティ応援隊とは 〕

県民交流広場事業の効果的な活用や、コミュニティの様々な課題解決を応援するため、県が学識者や専門家、モデル地域リーダーらに協力を求めて設置したコミュニティ応援隊（CAT）の中から、地域のニーズに沿った者を派遣します。

特に、県民交流広場を通じたコミュニティづくりにあたっては、地域の気運を盛り上げ、多くの住民の関心と参加を高めることが大切です。それには、プラン検討段階で、住民が集まり、ワイワイガヤガヤと今後のコミュニティのあり方、そのための取り組み、そして広場の整備内容といった意見を出し合っ
て共有していく「ワークショップ」が効果的です。このワークショップの進行を手伝う専門家も、CATから派遣します。

〔 コミュニティ応援隊の申し込みの流れ 〕

派遣を求める地域の方は、県民局県民担当、生活創造センター、文化会館、生活科学センターのいずれか（県民局圏域によって窓口が異なります）に申し込みします。

窓口機関は、CAT登録者（アドバイザーリスト）を示しながら、地域のニーズにふさわしいアドバイザーを助言し、希望にもとづいて双方をつなぎます。

コミュニティ応援隊のメンバーが、例えば、こんな課題、こんな悩みの解決をお手伝いします！

- ◎ コミュニティの大切さをみんなに理解してもらいたい！
- ◎ できるだけたくさんの住民に参加してもらって、地域の課題やニーズに即した事業プランをつくりたい！
- ◎ いろいろな意見が出て、県民交流広場の活用方向がまとまらない！
- ◎ 先行して県民交流広場に取り組んだ地域の体験から学びたい！
- ◎ コミュニティのホームページを立ち上げたいので助言がほしい 等々

県民局（県民協働課、文化会館、生活科学センター等）にお問い合わせください（裏面を参照）



◎あらかじめ登録されたコミュニティ応援隊メンバーの中から、地域の依頼内容にふさわしい講師をご紹介します。



◎講師に依頼内容を伝え、当日の進め方を調整するとともに、日程を調整します。（県民局もお手伝いします）



◎講師を迎え、プログラムを実施！！
◎簡単なアンケート調査にご協力ください。

〔 専門分野、支援・アドバイスできる内容 〕

県民交流広場事業の活用や整備後の運営・活動の充実を図るため、例えば次のような支援・アドバイスが考えられます。

	助言・支援の例	アドバイザーの例
事業 活用 支援	体験談披露・地域へのアドバイス： 広場活用の成果、広場の導入・運営で直面した課題と対応方策など（5件）	県民交流広場モデル地域のリーダー
	ワークショップ開催支援： 地域の現状や整備する拠点の活用方法について話し合う、ワークショップの企画助言・進行支援など（8件）	ワークショップの進行ノウハウを持った者
	コミュニティの重要性提起、他地域の事例紹介： 地域主催の学習会やフォーラムの講演・助言など（11件）	研究者・実践家など
運営 ・ 活動 支援	地域の情報化支援： ホームページ開設、SNS活用方法など（2件）	各分野の専門家、 団体・NPOリーダーなど
	NPOとの連携支援： 協働事業の検討・提案づくりなど（0件）	
	コミュニティビジネス支援： 起業ノウハウ・運営方法など（0件）	
	地域人材の確保支援： 地域通貨導入、人材養成の方策など（4件）	
	各種地域課題解決： 防犯、子育て、食・特産品開発、防災、文化、福祉、まちづくり、環境等 各分野の活動充実など（28件）	

※ 21年度のコミュニティ応援隊の派遣は、58件ありました。その内訳を()書きで、記載しています。

〔 ワークショップのすすめ 〕

県民交流広場のプランづくりをはじめ、コミュニティづくり・まちづくりの分野で、地域の「思いを共有」し、「合意形成」を図っていくためには、ワークショップという手法が効果的です。

モデル地域においても、「多くの住民が広く意見を出し合い、思いを共有するためにはワークショップで、ワイワイ意見を出し合うのが一番良い。やるぞという気運づくりにもなった」という意見が多く聞かれました。

ワークショップとは、講義や講演など一方的な知識の伝達ではなく、参加者が自ら参加・体験し、グループの相互作用の中で何かを学びあったりつくり出したりする、双方向の学びと創造のスタイルです。

県民交流広場の事業プランをまとめたり、どのような地域にしていくかを住民みんなで話し合うため、ワークショップの開催をおすすめします。

コミュニティ応援隊には、ワークショップの運営ノウハウを持つ者（ファシリテーター）が数多く参加しています。

〔 経費の負担 〕

	謝 金	交通費
交流広場支援 分野別学習支援	県負担(3万円)	地域負担(実費相当額)

〔 注意事項 〕

- 1 交流広場支援は、1地域年1件、分野別学習支援は、同一申請主体年2件の派遣が県負担の対象です。
- 2 県民交流広場交付決定後の謝金・旅費は、広場の活動費助成の対象となり、地域負担となります。
- 3 予算に限りがあるため、県が謝金を負担できないこともあります。
- 4 生活創造センター・地域生活創造情報プラザへのグループ登録により、会場提供等の支援もあります。

〔 申込先・お問い合わせ先 〕

地 域	県民交流広場事業全般の窓口	直通電話番号	コミュニティ応援隊の窓口	直通電話番号
神 戸	神戸県民局県民協働課	078-361-8578	神戸県民局県民協働課	078-360-8530
阪神南	阪神南県民局県民協働課	06-6481-4397		
阪神北	阪神北県民局県民協働課	0797-83-3136		
東播磨	東播磨県民局県民協働課	079-421-9290	東播磨県民局県民協働課	079-421-0993
北播磨	北播磨県民局県民協働課	0795-42-9513	嬉野台生涯教育センター	0795-44-0711
中播磨	中播磨県民局県民協働課	079-281-9320	姫路生活科学センター	079-296-3999
西播磨	西播磨県民局県民協働課	0791-58-2100	西播磨文化会館	0791-75-3663
但 馬	但馬県民局県民協働課	0796-26-3644	但馬文教府	0796-22-4407
丹 波	丹波県民局県民協働課 (丹波の森公苑活動支援部)	0795-72-5168	丹波の森公苑	0795-72-2127
淡 路	淡路県民局県民協働課	0799-26-2043	淡路文化会館	0799-85-1391
全 県	県庁県民生活課	078-362-4004	県庁県民生活課	078-362-4004



お電話をお待ちしています！



4 ホームページ等による情報発信

県民交流広場事業に関わられる方にとって、事業提案や活動を行っていくにあたっての必要となる情報をできるだけ多く知ってもらい、効果的な活動につなげていただくために、「県民交流広場公式ホームページ（<http://www.hyogo.kouryu-hiroba.jp>）」を設置しております。

ホームページでは、イベント情報・ニュース・助成情報等の新着情報をはじめとして、次のような形で情報を発信しています。ぜひ、ご活用ください。

《 「県民交流広場公式ホームページ」のトップページ 》



イベント情報、ニュース、助成情報等を随時お知らせしています。

県民交流広場事業の実施にあたって参考となる情報を掲載しています。

県民交流広場実施地区を紹介しています。

コミュニティ応援隊の派遣に関する情報を掲載しています。

